

(2) 調整法において、和服は洋服とことなり、既製服の占める割合が少なく、手製服が多いようである。

(3) 洋服と和服とでは、年齢層による所持枚数の比率が異なっている。

B—9 長崎県における婦人の被服調整に関する一調査（第2報）

長崎県立短大 ○串山美津子
前川 清子

1. 先に長崎地方の婦人の洋服について、所持枚数ならびに調整法などの調査研究を発表したが、今回は、同地域における和服について、同様の実態調査を実施し、その所持枚数および調整法の実態を把握し、洋服との関係をあきらかにして、今後の被服教育の一指針とするために、この研究を行なった。

2. 長崎県の7地区を選び、昭和38年9月に、中学校、高校および婦人団体を介して、約500名を対象に、質問紙法により調査した。

3. (1) 和服は洋服と同様、所持枚数および調整法において、地区的な差はみとめられない。